

編集後記

■本誌四〇集が編集された今年度は、「大学入試センター試験」の最後の実施の年であり、大学入試改革の取り組みが錯綜した年ともなった。「大学入学共通テスト」の国語の記述式問題を巡っては、採点や自己採点一致等の困難さから、「令和三年度大学入学選抜に係る大学入学共通テスト出題教科・科目の出題方法等（令和二年一月二十九日）」において、記述式問題が外され、マーク式問題となることが確定された。メ切的関係上、本誌（特集）に掲載した論考は、「大学入学共通テスト」において記述式問題が出題されることが前提になっている議論であるが、そもそも入試においてどのような学力を問うのか、国語の授業はどう在るべきかといった問題提起がなされている。改訂学習指導要領の全面実施（二〇二〇年小学校、二〇二二年中学校、二〇二三年高等学校、学習評価の充実（観点別評価、教科書の改訂等）を見据えて、授業づくりについては、さまざまな課題や論点が挙げられるが、本特集は、これからの国語教育について考える多くの示唆に富む内容となっている。また、二〇一九年六月の大会にて行われたシンポジウム（多文化共生時代における国語教師と国語教育）の報告においても教育現場における実態や多くの問題提起がなされており、これからの時代を見据える内容となっている。ご多忙の中、課題を整理しながら意義あるご論考をお寄せいただいた先生方に感謝申し上げます。

■今回、会員からの投稿は五本あった。編集委員会の査読を通して不採択とさせていただいた論考については、査読者から建設的な査読評をお送りさせていただき、今後の投稿への期待をお伝え

している。なお、本学会の「早稲田大学国語教育学会」という名称から国語教育の実践的な論考以外についての投稿を躊躇する会員がいることが懸念されるが、内容学からの論考の積極的な投稿も期待したい。本誌の更なる発展・充実を願い、投稿に応じた査読の体制も充実させていきたい。

■本誌刊行発行にあたり、学会代表である中嶋先生、編集委員の石井先生、甲斐先生、田淵先生、天満先生、仁科先生ほか、査読の任をご快諾くださった先生方、事務局の稲葉先生、籠尾氏、康氏には、終始ありがたい御助言と御尽力を賜った。ここに心より御礼を申し上げます。また、本誌に意義あるご論考をお寄せいただいた会員の皆様に、感謝を申し上げます。

（本橋幸康）
本学会をはじめ、国語教育史と実践に学ぶ会等、多くのご指導と御尽力を賜りました榎本隆司先生のご逝去に、心からお悔やみ申し上げます。

早稲田大学国語教育研究 第四〇集

二〇二〇年三月三〇日発行

発行所 早稲田大学国語教育学会

代表 中嶋 隆

東京都新宿区西早稲田一六〇一

早稲田大学教育学部内

振替〇〇一六〇一―八五二七番

印刷所 株式会社 研恒社

東京都千代田区九段北一―一七